
家族の為に、俺は

水海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家族の為に、俺は

【Nコード】

N2483Y

【作者名】

水海

【あらすじ】

一発ネタです。タイトルが一番悩みました。

俺にとって、軍団『龍の顎門』は言わば家族。両親の名も分からない、この世界における絶対的な心の拠り所。

だから、やるしかないと思った。

「……なあ、リッツ。本気で言ってるのか？ 相手はかの有名な『朱雀』なんだぞ？」

軍団内でも特に信頼がおける人物。団長のケニーが声をかけてくる。

朱雀、それは大陸一の精鋭軍団。同時に我々龍の顎門の宿敵。朱雀との抗争は長らく続いており、いわゆる縄張り争いが原因だ。お互いの利益の為、絶対に譲れない。

「ああ、俺がやる。暗殺なら誰にも負けない自信がある。朱雀のリーダー、ブルムの首は必ず獲るさ」

「……お前が一度言い出したら止まらないヤツだってことは分かってる。今更説得は考えていない。だから」

そう言っつて、ケニーは一本の短剣を取り出した。見覚えがある。軍団に伝わる伝説の短剣、デスプリンガーだ。名高い鍛冶屋が鍛え上げた逸品。

「これを託す。必ず戻って来い」

「……良いのか？ もし俺が失敗したら、この剣は」

「言つな。俺はお前を信じている。だから持つていけ」

「……分かった。必ず無事に戻ってみせる」

「それでこそリッツだ。行ってこい」

返事もせずに、ケニーへ背中を向けて歩き出す。勝率は五分以下であることは間違いない。それでも龍の顎門の未来の為に、俺は旅立つ。

「ここが奴らの拠点……行くぞ！」

覚悟を決め突入、そして朱雀リーダー、ブルムとの死闘を繰り広げた。

そして。

>リッツが死亡しました<

>リッツが右腕装備、デスブリンガー+5 をドロップしました<

>ブルムがデスブリンガー+5 を取得しました<

「うわあああああー!!」

俺は奇声を発しながら、ディスプレイ前の椅子から転げ落ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2483y/>

家族の為に、俺は

2011年11月16日02時10分発行